

<出品作家>

赤松音呂：東京都生まれ、神奈川県在住。2005年東京藝術大学大学院 先端芸術表現科修了。2015年アルス・エレクトロニカ ゴールデン・ニカを受賞。インスタレーションのほか、パフォーマンス、ビデオ、立体、絵画など様々なメディアを用いて、日常の世界でひそかに刻まれるリズムを掬い上げ作品化している。今回は蛍から発光に関わる遺伝子を抽出し、そのDNA配列を基に古代の蛍の発光を再現した新作を展示する。中部大学教授の大場裕一氏との共同制作により実現した本作は、2023年のアルス・エレクトロニカで特別賞を受賞している。

宇佐美雅浩：千葉県生まれ、東京都在住。1997年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。様々な地域や立場におかれた人々とその人物の世界を表現する物や人々を周囲に配置し、仏教絵画の曼荼羅のごとく1枚の写真に収める「Manda-la」プロジェクトを20年以上続けている。本展では昨年佐渡島を舞台に撮影された《世阿弥 佐渡 2022》を展示。合成は一切なく、全てを実際に準備し撮影する手法の本作は、現地の人々と何度も話し合い、協働することでようやく実現した。完成した写真はまるで野分が棚田から海に向かって力強く吹いていくようである。

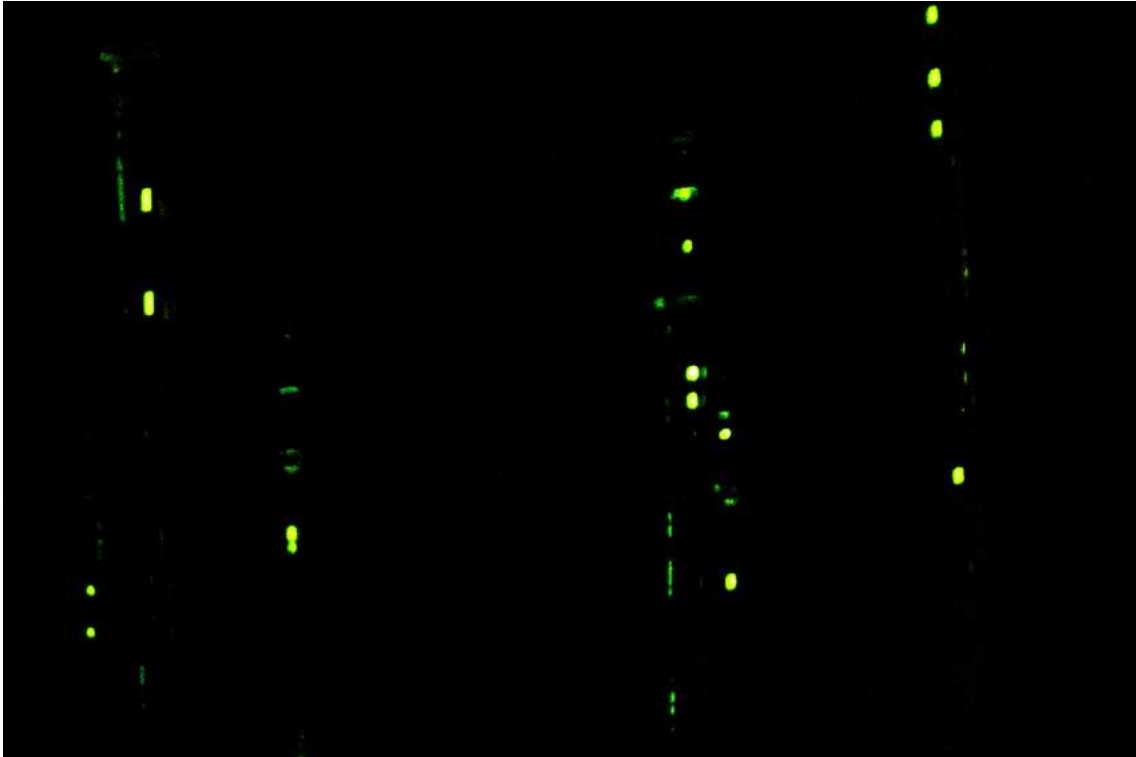
名もなき実昌：主にTwitterを拠点とし、アカウント (@sanemasa5x) を利用して2015年より展覧会と並行しながら作品の投稿・発表。インターネット上の人格や画家のキャラクター性を出発点として、タッチパネルやSNSなどのテクノロジーに影響された作品を制作している。本展では最新作を発表。

森淳一：長崎県生まれ、神奈川県在住。1996年東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2016-17年文化庁新進芸術家海外研修制度によりイタリアに滞在。大理石や木を素材とした彫刻作品のほか陶器、絵画、写真作品を制作している。今回は2009年に制作した木彫作品《flare》の再展示を行う。木の自然現象により一部破損をした本作を、素材の力を生かす方法で修復しさらに細かな彫りを加えることで、新たな作品に再生させた。ゆらめきを意味する本作は、変化し続ける現象そのものを留めている。

ザオ・ザオ：中国・新疆ウイグル生まれ。2003年新疆藝術大学油画科卒業。映像や写真、パフォーマンスなど多様なメディアを用い、現代中国社会の現実を鋭く描く作品で知られる。艾未未のアシスタントを務めていた経験をもち、その野心的かつ多面的な作品はMoMAをはじめ、世界中の美術館で展示され注目を集めている。今回展示をする《One Second, Portrait of Joseph Roulin》は、彼の代表的なシリーズ《One Second》からの作品で、1秒の重なりとさまざまな時間軸が交差する平面作品である。彼の母親が刺繍を施したという共同作品でもある。

ヘリ・ドノ：ジャカルタ生まれ、ジョグジャカルタを拠点に活動。インドネシアの現代美術を代表する作家の一人である。インドネシアの伝統的な芸術様式の要素を取り込む彼の作品は、絵画、キネティックスカルプチャー、インスタレーションやパフォーマンスなど多岐にわたり、その中には影絵芝居、ワヤン・クリも含まれる。現代の政治風刺とジャワの伝統が共存する、躍動感とユーモアに溢れる作品は世界中で愛され高い評価を得ている。本展では絵画作品を展示する。

赤松音呂



Perhaps, art begins with the fireflies

EOX- 1 億年前の蛍の光

2022

インスタレーション

サイズ可変

共同制作者：大場裕一

宇佐美雅浩



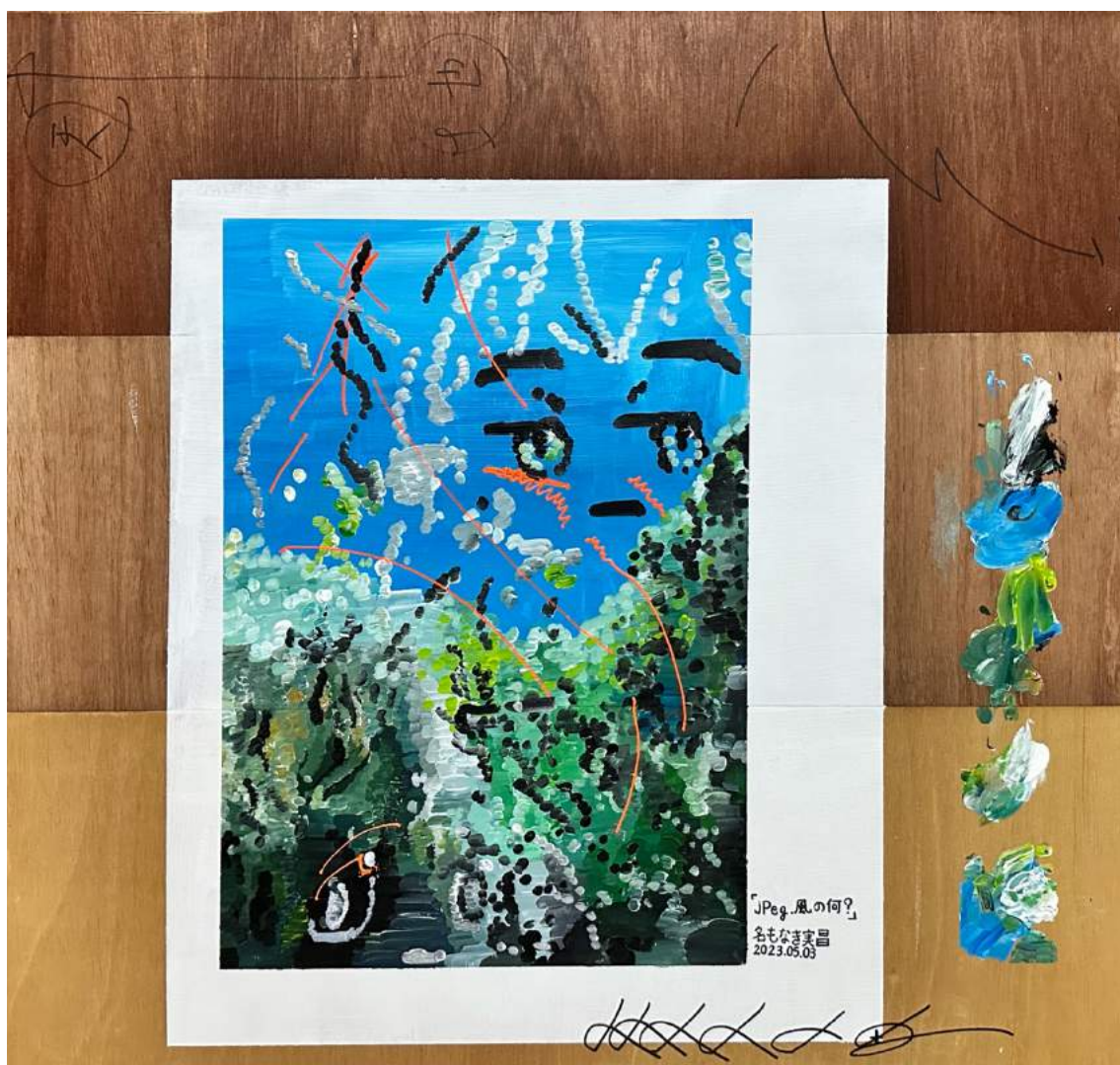
世阿弥 佐渡 2022

2022

インクジェットプリント

120×163 cm

名もなき実昌



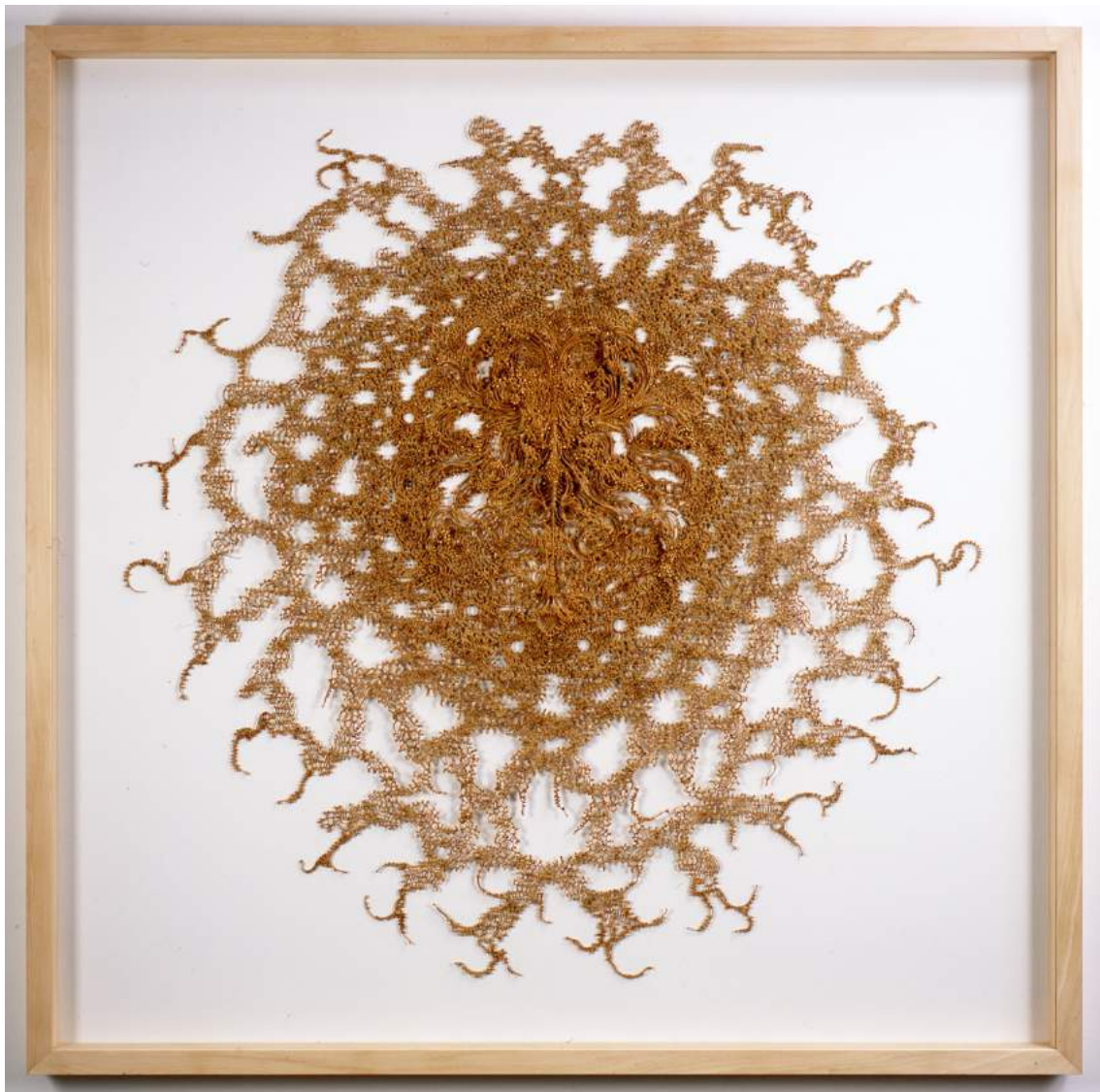
jPeg. 風の何？

2023

アクリル、インク、ジェッツ・パネル

59.5×64.2 cm

森淳一



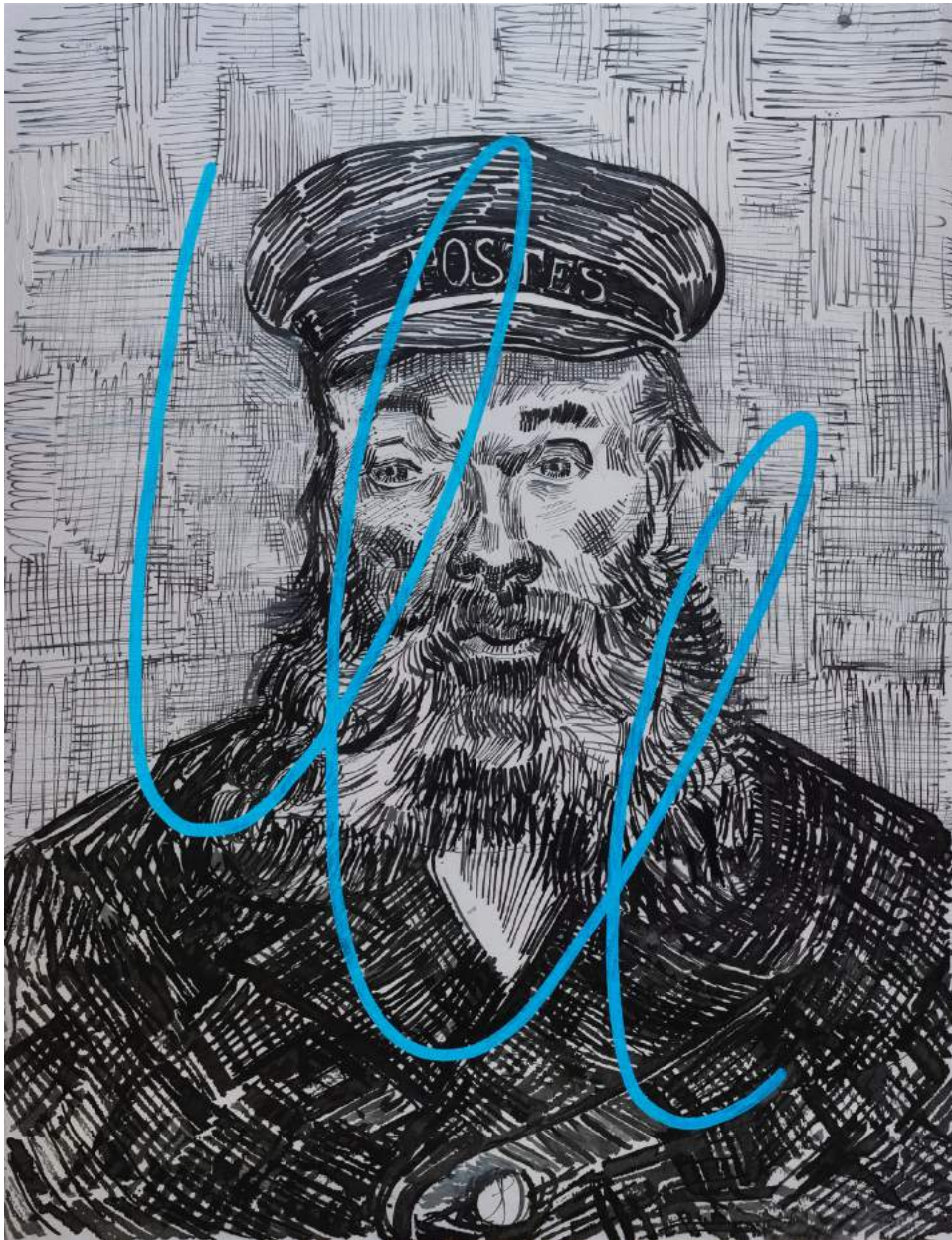
Flare

2009-2023

木

177×177×9 cm

ザオ・ザオ



One Second, Portrait of Joseph Roulin

2017

絹に刺繍とアクリル

263×203 cm

ヘリ・ドノ



The Palm Trees

2016

キャンバスにアクリル

150×150cm

* 作品の高解像度画像をご希望の際には下記担当までご連絡いただければと存じます。

担当：三川 (mikawa@mizuma-art.co.jp)

日下 (kusaka@mizuma-art.co.jp)